

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【上大久保中学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	漢字・計算の平均正答率が70%台だったことで、基礎知識がまだ定着していない。また、学習習慣も定着が不十分である。 漢字テストをはじめ、各教科での知識の定着を図るテストを実施するとともに、生徒自身が難易度を選択するテストを定期的に実施する。
思考・判断・表現	さいたま市学習状況調査や全国学力・学習状況調査の問題を分析し、授業改善につなげる。 個々の力に応じた課題を用意して取り組ませるような、個別最適な学習の促進を図る。
主体的に学習に取り組む態度	家庭学習が習慣化されるような課題の出し方の工夫と、主に保護者会や面談を通じた家庭との連携強化。 図書朝礼など、図書委員会を中心とした読書活動の啓発に努める。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	・当該学年で習得すべき漢字を読み書きできる。(各学年国語科の授業における漢字小テストで正答率が85%以上にする。) ・当該学年で習得すべき式の計算ができる。(SMD(Super Math Day)テストで正答率が75%以上にする。)	⇒ 各学年の国語科の授業において、月に2回程度漢字の小テストを実施し、それに向けた漢字練習に取り組ませる。 年3回、全校一斉での数学における計算の確認テスト(SMD)を実施し、それに向けた課題に取り組ませる。 上記の小テストに向けてしっかりと学習に取り組めるように、実施日を調整する。
思考・判断・表現	・R5年度さいたま市学習状況調査の国語・数学の「思考力・判断力・表現力」において、R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より3pt向上させる。	⇒ 研究課題に合わせ、全教員が授業を公開し、教科を越えて互いに授業を見合せて、教科横断的な視点を取り入れた授業を展開する。 ・各教科で身につけた知識を応用できるような課題を授業で設定し、教員側が評価の観点を示す。
主体的に学習に取り組む態度	さいたま市学習状況調査において、「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間を含みます。)(「家や図書館で、普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか。(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。)」の項目について、令和4年度よりも学習・読書に取り組む時間を増加させるとともに、「全くしない」という回答の数値を減少させる。	⇒ 各教科で小テストなどの目標に取り組めるような課題を設定し、取り組ませるようにする。 ・学習する意味を授業で伝え、自ら進んで学習に生徒が取り組みたくなるような学習課題や発問を工夫する。

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	漢字テストでは、3年生が正答率が89%と目標を超えたが、1,2年生は正答率が70%台に留まった。 年間で3回行ったSMDテストでは平均正答率が目標値の75%を超えた回・学年もあったが、全体を平均すると正答率は70%であった。	B
思考・判断・表現	正答率では、中1の国語で前年度自校ポイントより3ptアップを達成した。偏差値では中2の国語以外で前年度より上昇することができた。	B
主体的に学習に取り組む態度	さいたま市学習状況調査において、ふだんまったく勉強しない割合は、前年度に比べ減った学年が多いが、全体としての数値は微増している。また、ふだん読書をまったくしない割合は前年度に比べ増加した。	C

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	知識・技能について、全国平均と本校の結果を比較すると、国語で-0.2pt、数学で-1.6pt、英語で+9.5ptであった。下回った教科について、国語では古典分野の問題で、数学では資料の扱いについてそれぞれ苦手としている生徒が多いことがわかった。
思考・判断・表現	国語の問題では、選択式の問題について、無解答率は低いが、選択肢をよく吟味し、選択肢同士を比較する作業を飛ばして解答することで誤答を選択してしまう生徒が多かった。国語に限らず、全教科で教科横断的に似た文章を比較させ、吟味させたり、根拠を求める発問を重視していきたい。
主体的に学習に取り組む態度	学力・学習状況調査「学校の授業時間以外に、普段、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか」という質問に対し、1時間以上勉強している生徒の割合が昨年度から3.8pt上昇した。一方で、30分未満しか勉強していない生徒も3.2pt上昇し、一人ひとりの勉強時間に差が開いている。

④ さいたま市学習状況調査結果・分析	
※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。	
中1	「主体的対話的で深い学び」に関する項目では、市の平均値を上回るものが多く、特に「授業で学んだことを、ほかの学習で生かしている」生徒は多い。その一方で、「家で自分で計画を立てて勉強している」生徒は半分しかいなく、1日あたりまったく勉強しない生徒も全体の1割を占めることから、学習習慣が定着していないといえる。
中2	各教科の授業が好きかどうかを問う項目では、教科によって平均を大きく上回るものもあれば、大きく下回るものもあり、得意不得意がはっきりと分かれている。また、自尊意識に関する項目ではほぼすべての項目で、市の平均を下回っており、苦手なものになかなか挑戦できない生徒が多い傾向にあるといえる。
中3	進路決定に際して、「将来の夢や目標をもっている」生徒が8割いたことから進路に向き合えた生徒が多かったといえる。また、主体的対話的で深い学びに関する項目では、市の平均を超え、中には9割以上を占めるものもあったことから、中学校生活3年間の学習が生徒の力になり、生徒の今後の人生を支える土台となったものといえる。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 国語科では、歴史的仮名遣いの小テストなどを実施し、知識の定着を図る。
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 図書委員会を中心に読書活動の充実が図れる企画を立てる。